射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価に用いられるパラメータ調査専門研究会
第１回会合　議事録

1.　日　時：2019 年 6 月 11 日(火)　13：00～15：00
2.　場　所：東京大学　浅野キャンパス　工学部 12 号館 2 階 222 室
3.　出席者：（順不同、敬称略）

委員:

高橋　知之　(京都大学、主査)
深谷　友紀子　(日本エヌ・ユー・エス株式会社、幹事)
飯本　武志　(東京大学)
宇仁　康雄　(三菱重工業株式会社)
加藤　智子　(日本原子力研究開発機構)
武田　聖司　(日本原子力研究開発機構)
中居　邦浩　(日揮株式会社)
中林　亮　　(電力中央研究所)

オブザーバー:

内田　滋夫　(量子科学技術研究開発機構)
田上　恵子　(量子科学技術研究開発機構)
孫　　思依　(東京大学)
杉山　武　　(日本エヌ・ユー・エス株式会社)
平山　誠　　(日本エヌ・ユー・エス株式会社)

4.　議　題：

①　各委員の自己紹介・メンバー紹介
②　本研究会の趣旨説明
③　現状の説明
④　本研究会での検討内容に関する議論
⑤　今後のスケジュール

5.　配布資料：

資料１　第１回会合議事次第
資料２　委員名簿
資料３　出席者名簿
資料４　本研究会の趣旨説明
資料５　現状の説明と本研究会での調査方法
資料６　今後のスケジュール

6.　議事内容

資料 1 に基づき、第 1 回会合の議事内容について主査から説明した。

6.1　各委員の自己紹介・メンバー紹介

資料 2 に基づき、各委員の自己紹介を行った。また、オブザーバーの参加が主査により承認され、資料 3 に基づきオブザーバーの自己紹介を行った。

6.2　本研究会の趣旨説明

資料 4 に基づき、本委員会の設立の背景、調査目的、調査計画の概要について、高橋主査、深谷幹事から説明を行った。

6.3　現状の説明

資料 5 に基づき、深谷幹事から出典追跡調査における現状を説明した。

6.4　本研究会での検討内容に関する議論

今後の調査対象元素、調査方法等について議論し、本研究会の方針等を以下のように決定した。

- 本研究会の方針
  - 初年度：これまで日本の放射性廃棄物処分に係わる生活圏被ばく評価において使用されたパラメータの出典追跡調査を行い、データの根拠を確認することで、現状のパラメータ設定状況を把握する。
  - 次年度：追跡調査の結果と、国際的なテクニカルレポートや最新のパラメータを掲載している文献での設定値や論文との比較を行い、データの差異が大きい元素・パラメータについて要因分析を行う。その結果として、今後の放射性廃棄物の被ばく評価におけるパラメータ設定の方法論について議論を行い、成果をまとめる。
- 調査対象元素：

  Cs、I、Pu の 3 元素とする。
- 調査対象パラメータ：
  - 土壌の分配係数(表層土壌、農耕地)
  - 農作物の移行係数(野菜)
  - 水産物の濃縮係数(海水魚類、淡水魚類)

    （濃縮係数に関しては、一部の元素のみを対象とする）
- 出典追跡調査対象資料(一次資料)
  - 原子力安全委員会（2009）：ウラン取扱施設におけるクリアランスレベルについて.
  - 原子力安全委員会（2007）：低レベル放射性固体廃棄物の埋設処分に係る放射能濃度上限値について.

- 電気事業連合会・核燃料サイクル開発機構（2005）: TRU 廃棄物処分技術検討書－第2 次 TRU 廃棄物処分研究開発取りまとめ－, JNC TY1400 2005-013, FEPC TRU-TR2-2005-02, 556p.
- 日本原子力学会（2017）: 日本原子力学会標準　浅地中処分の安全評価手法：2016, AESJ-SC-F026:2016, 240p.

➢ 具体的な調査方法

委員及びオブザーバーが分担して、以下の調査を実施する。

- 一次資料における評価対象元素及びパラメータの出典追跡調査（パラメータの信頼性の議論を行うために、実験方法・測定条件などの設定根拠についても念頭において調査する）
- IAEA のテクニカルレポートの作成背景（データの統計方法など）の取りまとめ
- 諸外国における当該パラメータの設定方法の調査

6.5　今後の進め方について

資料 6 に基づき、本研究会の今後のスケジュールについて確認し、本研究会のアウトプットとして、報告書を取りまとめるとともに、以下の発表を行うこととした。なお、本委員会の議論に基づき、委員及びオブザーバーが適宜成果を発表することとした。

2020 年 6 月：保健物理学会にて発表(本研究会での検討成果の中間報告として)

2021 年 6 月：保健物理学会にて発表(本研究会の総まとめ)

6.6　その他

次回会合は、10 月初旬を予定。

以上